

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102356		
法人名	医療法人社団豊和会		
事業所名	グループホーム菜の花園		
所在地	栃木県宇都宮市平出町1666-1		
自己評価作成日	平成24年11月6日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者に、どうしたら楽しく過ごして頂けるかということを大切に考え、職員は入居者と共に歩むという姿勢で支援している。自治会や地域の行事には出来るだけ参加し、近隣のボランティアを事業所に招待したりと、地域との関わりを積極的に行っている。リビングから庭に出られる大きなデッキがあり、植えられた花や野菜を見る事が出来、季節を感じられる作りになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手入れの行き届いた広い庭があり地域の方々も自由に散歩が出来る。四季の花を楽しむことができるようになっており、畑に野菜を作って収穫を楽しむこともある。また、室内も清潔感にあふれ、利用者も職員も活動しやすいレイアウトとなっている。管理者も日々のケアに入りながらきめ細かくサービスの質の向上について考えており、少しの関わり(お手伝い)で利用者本人が出来るような工夫も職員全員で検討している。書道や生け花などの地域ボランティアにも協力を得ながら、地域へのホーム機能の還元や地域とのつながりを大切にしているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関には基本理念を、事務スペースには介護心得を掲示し、職員にもそれを配布して理念の共有に努めている。	「人と人とのつながりのなかで、互い支え合いながら人間らしく健康的で明るい共同生活を送れるように支援する」という理念と一緒に「菜の花の介護心得」を職員全員が携帯していつでも見られるようにして共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域で行われる消防訓練や市民センターの催しには出来るだけ参加するなどしている。また事業所で行う会議や訓練・祭りには地域の方に来て頂けるよう働きかけている。	自治会に加入し、散歩中の挨拶はもちろんのこと、野菜のお裾分けや七夕で使用する竹をもらったりしている。近所で販売している梨、朝市の野菜などを買いに行く事もある。ホームで行う秋祭りでは、近所の子どもも楽しめる内容にするなど工夫をし交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を開催したり、運営推進会議を通じて地域の皆さんに向けて活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や外部評価等の結果報告を行い、それについて意見を頂く事で、サービス向上につながる様取り組んでいる。	参加者は家族や自治会、公民館、民生委員、防災ネットワーク、市民センターの方々がメンバーとなっており、議題によっては警察の参加協力が得られている。地域の名人(人材)の紹介もしてもらえる機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者や介護支援専門員が主に窓口となり、市役所に出向いたり電話での報告・相談を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	担当者とサービス内容や制度などでの疑問点は気軽に相談できる関係性が築かれている。認知症サポーター養成講座などの場所の提供も行いながらホームの機能を活用してもらえるよう提案している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、随時勉強会を開き、職員全体が身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	ホーム独自で委員会を設置しており、外部講師を招いて職員全員が勉強する機会としている。また、利用者のその日の状態を適切に把握することにより見守りを徹底しながら実践している。フェンスや玄関も防犯以外の理由では施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の高齢者虐待対応マニュアルを参考に、カンファレンス等で意見交換を行うなど、職員全体が学ぶ機会もてるよう努めている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持っている。また情報の必要な家族には、その都度必要な情報を提供できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に体験利用をして頂くなど、利用者や家族の不安を取り除けるよう努めている。 また、契約や解約の際は理解・納得して頂けるよう十分に説明する様心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や不満などを言いやすい雰囲気づくりに努めている。 また意見を反映させるためにも、運営推進会議への参加を働きかけている。	担当制をとっており家族の訪問時には積極的に近況を伝えたりしながら細かい事まで連絡を取る体制となっている。収集した情報は連絡帳にまとめて職員全員が共有できるようにしている。	情報収集をする際に使用するアセスメントシートの内容検討をすることで、より利用者や家族の意見が聴き取りやすい工夫ができるようになることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎回、代表者は時間の都合の付く限りカンファレンスに参加し、職員の意見や提案を聴く機会を設け、運営に反映させるよう心がけている。	管理者やリーダーが積極的に聞き出しながら日々のケアの中でも取り入れるようになっていく。ケアの方法は日々のアイデアを取り入れられ、ソファを購入する意見が取り入れられ、くつろげる場所を作ることができた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各人が向上心を持てるよう就業規則を整備している。 またやりがいを持って働けるよう福利厚生・充実などに力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や力量などに応じ、事業所内外の研修が受けられるよう機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び県のグループホーム協会に加入し、会合や研修会に参加して情報交換を行っている。 内容を職員にも伝えることで、事業所内のサービス向上に活かしている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や、利用しているサービス事業所を訪問させて頂き、個別に話を伺う時間を作りアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問時や来園の際には話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、話を伺う時にはじっくりと傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの情報提供と共に、本人と家族にとって当サービス利用の必要性について再確認して頂けるよう働きかけている。本人と家族にとって最善である事を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一夫的に行う介護ではなく、行事や食事作りを行う際には入居者のアイデアや、知恵を出して頂けるような関係が築けるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を密に行い、家族からも助言を頂き、共に入居者を支えていけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族との会話の中から、馴染みの場所や人の確認に努め、馴染みの関係が継続できるよう心がけて支援している。	かかりつけ医や地域の理美容店、買い物をする店へも家族の協力も得ながら馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った人同士や、レベルに合わせた座席の配置などを心掛けている。また、一人である入居者に対しては常に声かけし、他利用者と関わりが持てるよう支援している。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所または他施設へ移動した入居者の所へ時々面会に行っている。また、退所した入居者が園に遊びに来ることもあり、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしぶりや日々の関わりの中で気付いた事を「気づきシート」に記入し、支援に役立てている。意思疎通が困難な場合には、家族からも情報を得るようにしている。	「気づきシート」は日々の職員の気付きを記入しておりケアプランにも反映できるような形となっている。お茶の時間を活用して一緒に新聞や広告を見ながら利用者の気持ちを聞き出している。食事メニューや外食先も一緒に決めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を出来るだけ変えない様、これまでの生活環境を把握し支援する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に対し、職員の担当制を取っている。担当の職員が、直接希望・要望を聞く事で現状に即した介護計画を作成している。また、家族や主治医からの意見も反映させている。	ケアプランは「気づきシート」を活用しながらカンファレンスで最終的にまとめながら作成をしている。担当制をとっておりケース会議でのモニタリングの他にも日々の話し合いの中でも見直しをしている。毎日20分～30分ほどかけて行っている。	外部からの視点を入れていくことで利用者の全体的像が把握しやすく、また、モニタリングの精度もあがると思われるので、そのような体制検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録だけでなく、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の担当制を取り入れ、本人や家族と密にコミュニケーションを取ることで、入居者の個別の要望に応えられる体制を作り、柔軟な支援が出来るよう努めている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センター文化祭や歌ふれあいコンサートに出向いたり、近隣の朝市で買い物をしたり、消防訓練に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来からのかかりつけ医での受診を支援している。通院時は基本的に家族が付き添い、主治医との意見交換が出来るようにしている。受診の際は、家族に生活状態・変調などを密に知らせている。	かかりつけ医の受診は家族の協力のもと行っており、1日を通したバイタルなどの情報をノートにまとめて医師に提出すると、医師からもコメントが帰ってくる体制となっている。医師から直接電話をいただくこともあり、また、細かい状況報告は電話でのやり取りが気軽に出来る関係性が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への申し送りを徹底し、相談しながら、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供を行い、退所には1カ月の猶予期間を持っている長期になる場合は、医療機関・包括との連携を図り相談を受けているが、入院が1カ月を超えた場合の再入所は難しい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	難しい課題となっているが、入居者が重度化した場合、家族の協力の下、主治医と相談しながら出来るだけの支援をしたいとの思いはあるが、現時点では難しい。	看取りまで、まだ行った例はない。平日の午後にはホーム職員として看護師が配置されている。職員の意識が高まっており、協力医の夜間対応も可能であり重度化や終末期への支援が検討されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルなどの整備。急変時に適切な対応が取れるようカンファレンス時等に勉強や訓練を行っている また消防訓練の際、消防署の方に指導をお願いしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方に参加して頂いたり、消防署の方に指導して頂いたりしながら年2回消防訓練を実施している。また、地域で行う防災訓練や他事業所で行う訓練にも積極的に参加しコミュニケーションを図っている。	市民センターで行われる練習では実際に煙の中を歩く体験も行っている。地域の消防分団や自治会長など地域の協力も得られる体制が整っている。備蓄も職員アンケートをして必要な物品を決定したり防災担当の職員も決めている。	

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人ひとりに対してかける言葉を選び、人格を尊重し、誇りを損ねたり勘違いのないよう対応している。 また入浴やトイレの際もプライバシーに配慮している。	利用者の心地よい話され方や呼ばれ方にもプライバシーを尊重しながら職員で検討をして実施している。ケアプランの中にも居室や一人で過ごす時間を記載しながら、一人ひとりに合った過ごし方への支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間に好みの飲物を伺ったり、入浴の際には、利用者本人が決められる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるが、利用者の意見を取り入れ、利用者のペースに合わせて支援している。起床や入床の時間も決まっておらず、基本的に共同生活だが、自分のペースで過ごして頂けるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力を得て、入居者の好みの服や化粧品を用意して頂いている。着替えの際にもなるべく自分で選べるよう工夫している。 また、2か月に一度、町内の理容室に来て頂き希望で理髪を受ける事が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けなど職員と共に食事の支度を行っている。献立は決まっても、利用者の好みに合わせた味付けにするなど、食事を楽しんで頂けるよう心掛けている。	利用者は食材の皮むきや切ったり、盛り付けたりしている。誕生会には赤飯を用意して、利用者が好きなメニューを外食したり出前を取ることもある。天気の良い時には庭で食事をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は食材配達の業者が立て、カロリーや栄養も計算もされている。水分も季節などに合わせ意識的に摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行うよう支援している。 また、ブラッシングの難しい利用者はマウスウォッシュ・義歯には週に1度のポリドントなど個別の対応を行っている。		

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し、利用者の排泄パターンを把握することで、声かけ・誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている。	オムツを使用する方も日中はパットにするなど、トイレでの排泄を基本として誘い方にも配慮しながら自立に向けた支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響を考慮し、日頃より水分や繊維質の多い食べ物の摂取を心掛け、適度な運動を行うよう支援している。主治医の処方により、内服薬で排便のコントロールを行っている利用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間などは決めておらず、その日の体調や気分・希望で入浴しており、その人のペースで気持ちよく入浴できるよう支援している。ゆず湯など季節を感じて頂けるよう心がけている。	毎日入浴ができるように用意をしており、基本は週2回として午後1:30～3:00位に支援している。誘うタイミングや方法を変えながら利用者が負担にならないよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床や休息時間は自由であり、一人ひとりの生活習慣やその日の状態に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は服薬の目的や副作用について認識し、個別にチェックし、薬の目的や副作用、用法・用量について理解し、内服の支援・管理に努めている。変化があった時には、家族に説明し、受診して頂くよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の「できる」事に合わせて役割を持って頂き、行うことで「できる」を継続して頂けるよう支援している。また誕生会や、生け花教室・買い物など、楽しみや気分転換が行えるよう日々心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた花見や紅葉狩り、外食などに出かけている。一人ひとりのその日の希望に沿った外出は、可能な限り実施できるようにしている。	日常的に広い庭に出て季節の花々を見て楽しんでいる。また、外食や花見など遠方に出かけることもあり、場所は利用者の希望を聞きながら決めている。	

グループホーム菜の花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の買い物の為に小遣いはあるが、金銭管理を行うことが難しく、事務所にて管理を行っている。(1名、家族了承の下自己管理している)外出の際は支払いなど行って頂くよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある時には電話を貸す等の支援をしている。また、年賀状など季節のあいさつを書いて頂くよう心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使いやすいテーブルや椅子の高さに配慮し配置も工夫している。共有空間から花や野菜が植えられた庭を眺める事が出来、季節を感じる事が出来る。また、廊下・トイレ・浴室には手すりを配し安全で居心地良く過ごせるよう工夫している。	テーブルやソファの位置なども利用者の意見を取り入れながら変えている。温度はこまめに確認をして一定にするよう配慮している。夜は湯たんぽを使用したり、これから寒い時期になると湿度の維持が課題となるが、加湿器を活用して湿度の管理も行えるようになってきている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じホール内に居ても、数名のグループで寛ぐ方、少し離れテレビやビデオを楽しみ寛ぐ方、自室で寛ぐ方など思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力を得て、使い慣れた好みの物を利用して、個別的な部屋作りをしている。家族の写真や趣味の作品を飾り、居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	月2回の生け花教室があり、居室には作品が飾られている。仏壇を持ち込んでいる方もおり、家族が居室のレイアウトをしたり、担当の職員が利用者と一緒に飾り付けをしながら個性が出る居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や、トイレには見やすい表示をするなど工夫をしている。また、個人の乳液や歯磨き粉など間違いやすいものにも大きな表示をするなど混乱や失敗のない様支援している。		